

立命館大学アート・リサーチセンター

調査日：平成28年9月27日(火)

立命館大学アート・リサーチセンター(立命館大学ARC)の数あるデータベースの中でも、代表的なデータベースである「ARC浮世絵ポータルデータベース」の事例を中心にヒアリング調査を行った。

- ・「ARC浮世絵ポータルデータベース」は、立命館大学ARCの所蔵作品を中心に、約50の機関・個人がweb公開する画像のURI(Uniform Resource Identifier)を管理する、機関横断型デジタルアーカイブである。
- ・他の博物館とリンクする際に項目を統一させることは難しい。それぞれの施設によって重視する項目が異なる。
- ・重視する基本情報は画像である。画像の質にはこだわりをもち、学術雑誌で出版できるクオリティのものを撮ることを基本としている。
- ・データには、公開データと非公開データがある。連携機関は自身の所蔵資料のデータを公開するか、非公開とするか選ぶことができる。
- ・研究利用を目的としたデータベースである。
- ・画像の使用ルールは、各所蔵機関の利用ガイドへのリンクを貼って、当該機関の規定に基づいて利用するように明記している。
- ・画像公開については、当初懸念もあったが、10年以上運用してきて、大きな問題は起きていない。
- ・データベース公開に対して、海外の機関は積極的だが、国内の機関は消極的な傾向がある。
- ・ARCのデータベースは、大英博物館との連携により大きく前進した。欧米の機関へのPRになった。
- ・ARCモデル(赤間亮教授提唱)は、研究者自身がデジタルアーカイブ化推進に参画するのが基本となっている。
- ・2014年からは、文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」としても活動している。
- ・ヒアリング調査後には、アート・リサーチセンター内を見学した。資料の修復、保存、撮影、デジタル化作業をすべてセンター内でできる設備と人員が整っており、データを保管するサーバも所有している。